

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0071 (2026.8.31)

**第36回 芥川也寸志サントリー作曲賞
中橋祐紀氏の作品
『And I sole ear（そして私はただ唯一の耳となる）』に決定**



中橋 祐紀 ©Anne-Laure Lechat

第36回 芥川也寸志サントリー作曲賞(旧名:芥川作曲賞)は、8月30日(日)午後5時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、中橋祐紀氏作曲の『And I sole ear（そして私はただ唯一の耳となる）』に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金150万円が贈られました。

芥川也寸志サントリー作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大な貢献をされた芥川也寸志氏(1925-1989)の功績を記念して、サントリー音楽財団(現・公益財団法人 サントリー芸術財団)が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。さらに、受賞作曲家には新しいオーケストラ作品が委嘱され、2年後にその初演を行なうという複合的な賞です。

同日、公開選考に先だって、第34回受賞者 石川 健人氏の受賞記念サントリー芸術財団委嘱作品「『嗅覚受容体』2台のキーボードとオーケストラのための」の世界初演が行われました。

▽第36回芥川也寸志サントリー作曲賞

中橋 祐紀（なかはし・ゆうき）

『And I sole ear（そして私はただ唯一の耳となる）』

<贈賞理由>

電子音響の音素材をひとつひとつ自ら作り込むなど丁寧な作業を行い、器楽との融合が美しい。作品の構成、ドラマツルギーが完成されている。自然と合一する美しい内的音響世界によって、最も深い問いを立ち上げた。

<略歴>

1995年生まれ。富山県出身。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学大学院修士課程修了。現在、博士後期課程に在籍。文化庁新進芸術家海外研修制度、ローム ミュージック ファンデーションからの給費を得て、パリ国立高等音楽院作曲科第一・第二課程修了。第76回ジュネーブ国際音楽コンクール第2位など受賞多数。

第36回芥川也寸志サントリー作曲賞 選考経過

1. 2026年3月3日（火）当財団会議室での選考会において、2025年1月1日より2025年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に、譜面と初演録音により、本賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第36回芥川也寸志サントリー作曲賞」の候補に選定した。

選考委員は、岸野末利加・桑原ゆう・佐藤聰明の3氏。（50音順）

◆金田 望：2群のオーケストラのための『肌と布の遊び』

初演＝2025年5月25日

東京オペラシティコンサートホール タケミツメモリアル

2025年度武満徹作曲賞本選演奏会

◆中橋祐紀：『And I sole ear そして私はただ唯一の耳となる』

初演＝2025年9月30日

パリ国立高等音楽院サル・レミー・フリムラン

パリ国立高等音楽院作曲科修了演奏会

◆山本哲也：『戸外の鳥たちへのトリビュート』

合唱と室内オーケストラのための

初演＝2025年8月3日

神戸文化ホール 大ホール

神戸市室内管弦楽団&神戸市混声合唱団こどもコンサート2025

「いろとりどりの音楽会」(KOBE 国際音楽祭 2025)

(50音順)

2. 2026年8月30日(日) サントリーホール大ホールにおいて、上記3曲を公開演奏(指揮＝阿部加奈子、管弦楽＝新日本フィルハーモニー交響楽団)。演奏終了後、岸野末利加・桑原ゆう・佐藤聰明3選考委員による公開討議(司会＝長木誠司)を行った結果、「第36回芥川也寸志サントリー作曲賞」受賞曲に中橋祐紀氏の作曲による『And I sole ear (そして私はただ唯一の耳となる)』が選定された。
3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー芸術財団代表理事 堤 剛より賞状、賞金(150万円)が授与された。
なお、中橋祐紀氏にはサントリー芸術財団より新しいオーケストラ作品が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)

以 上